



FIWA®代表理事リレー投稿
「気になるあの人、あのこと、ひとこと話 Vol.4」



寄稿: FIWA®協会
副理事長 岩城 みずほ

みなさま、いかがお過ごしですか。行動範囲の制限された日常の中で、心身のバランスを崩してしまいそうですが、心豊かな日々を送れるように心がけたいなと思います。。

さて、今回は FIWA®認定アドバイザーである「しほ FP オフィス」の志甫真由美さんのご活動をご紹介します。

志甫さんは、「家計改善プランナー」という活動を精力的にしていっしょにやります。

私は、「行政と連携して経済的に困っている人に対するの支援活動をしている」と伺って大変興味を持ちました。



■行政の生活困窮者に対する家計改善の取り組み

平成 27 年度(2015 年)に生活困窮者自立支援法が施行されたのに伴い、厚生労働省は、生活困窮者自立支援制度「家計改善支援事業」を実施しています。

<https://minna-tunagaru.jp/know/kakeikaizen/>

家計改善支援事業とは、「家計に問題を抱える生活困窮者からの相談に応じ、相談者とともに家計の状況を明らかにして、生活の再生に向けた意欲を引き出した上で、家計の視点から必要な情





FIWA®通信「インベストライフ」

報提要や専門的な助言・指導等を行うことで、相談者自身の家計を管理する力を高め、早期に生活が再生されることを支援する取り組み」のことを指すのだそうです。

要は、相談者にどこまでも寄り添い、専門家がバックアップしながら、相談者ご本人が主体的に問題解決をするということでしょう。

志甫さんは、まさにその相談者をされていますが、活動のきっかけとなったのはブログです。銀行員として13年間のキャリアのある志甫さんのブログを読んだ行政の方から協力要請があったそうです。こちらがそのブログです。

<http://shiho-fp.com/category/news/blog/>

志甫さんは、「納税ができない人に納税を促すための指導をすると、借金をして納税する人もいる」などの様々な現状を知り、それではなんの解決にならない、どうにかしなければ！と思ったそうです。なるほど、なかなか根が深そうな問題です。

日頃、お金の相談に乗っている私たちにとって、「まず大切なのは、将来を考えて長期的なライフプランを考えること」という結論はすぐに思い浮かびます。ただ、その必要性を納得してもらい難しさは並大抵ではないでしょう。

志甫さんも、「いきなりキャッシュフローなど作ったら、相談者はやる気をなくしてしまう。あくまで相談者の目線に立って、その人の悩みや不安に寄り添い、根気よく向き合うことが重要だ」とおっしゃいます。本当にそうですね。

■お金の余裕がないのはなぜ？

「どうしてここにこんなにもお金が掛かっているのか、通信費が多すぎる、住宅ローンの借入れ過多など、問題を指摘することは簡単。でも、それでは相談者は心を開いてくれないし、当然ながら家計改善には至らない」と志甫さん。

まずは「必要な情報を伝えること」と言います。

例えば、社会保険料を払うことで翌年の税金が安くなること、厚生年金の適用事業所に転職することで、奥さんの分も負担していた国民年金保険を払わずに済むことなどです。

私たち専門家にとっては当たり前のことも、生活者の方は知らないことも多いんですよね。

厚生年金は老後の年金だけだと思い込み、障害や死亡の補償があることを知らない人もいます。



FIWA®通信「インベストラ이프」

「公的年金制度を正しく理解することで、『保険料を払わされている』という意識から、自分のために利用できる制度なのだと意識が変わる。それが、『生活を変えて行こう、お金の取り扱い方を考えよう』という気持ちに繋がるのだ」と言います。

■「節約しろ」だけではダメ

「家計改善とは、今ある家計から無理な節約や無駄な付き合い、ムラのあるお金の使い方を卒業し、人生を楽しむ資金を作り出すこと」と志甫さん。

「でも、『お小遣いを減らしましょう』『もっと節約していきましょう』『お金のかかる趣味をやめましょう』と言われると、相談者は聞く耳を持たない。相談業務で大切なのは、同じ目線で話をする、本人が変えようという気持ちを育むこと」

何度も会って話を聞く。その人の価値観を大切に。頭でわかっている、制約のある中で行うのは難しいこともあるでしょう。行政との連携でこそ行える、大きなメリットですね。

志甫さんの「心の余裕がないとお金の余裕には繋がらない」という言葉が印象的でした。

■目先のことではなく、大きな流れを改善

「今の生活を大切にしながら、ずっと継続できる家計管理ができるように相談者に寄り添いたい」

志甫さんは、教育費と老後生活費の兼ね合いを考え、時にははっきりとアドバイスすることもあるそうです。

「実は、一つでも問題を自分でクリアすれば、大きな自信に繋がり、その後の家計管理が改善することが多い」と言います。

まさに主体性を育みながらのサポートですね。素晴らしいと思います。相談業務は、知識、人間力、体力、根気など多くの力が必要ですね。

志甫さんは、「自分の感覚をすてて、その人の状況に寄り添うこと。相談者がアドバイザー（FP）から巣立つことを目標として相談にのっている」そうです。

志甫さんの想いは、まさに FIWA® の理念、「顧客ファースト、自分ラスト」ですね。そんなアドバイザーがもっともっと増えるといいなと思います。

プロフィール

志甫 真由美(しほ まゆみ)さん



FIWA®通信「インベストラ이프」

地方銀行に十数年勤務。在職時に融資業務を経験したことから、お金を借りる前にライフプランを立てることの重要性を実感し、ファイナンシャル・プランナーを志しました。人生100年時代に向けて、お金の悩みや不安をなくし、夢を実現するお手伝いをしています。「節約だけが家計改善ではありません。ライフプランを身近なものに！どんな方にもわかりやすく」がモットーです。

保有資格

ファイナンシャル・プランナー(CFP®)、一級ファイナンシャルプランニング技能士(国家資格)